

○議長（小林哲雄）

皆さん、おはようございます。ただいまの出席議員は12名です。定足数に達しておりますので、これより平成26年第1回開成町議会定例会9月会議（第2日目）の会議を開きます。

午前 9時00分 開議

○議長（小林哲雄）

日程第1、一般質問を行います。質問、答弁は簡潔にお願いいたします。

9番、佐々木昇議員、どうぞ。

○9番（佐々木昇）

皆様、おはようございます。9番議員、佐々木昇でございます。

先に通告いたしました一つの項目について質問させていただきます。

安全・安心なまちづくりに向けた防犯体制の強化を。近年、多くの犯罪についての報道を見ますと、我が国の安全神話に大きな陰りが見えてきました。法務省がまとめた犯罪白書によりますと、犯罪認知件数は、平成15年より減少傾向にありますが、薬物使用など、認知に至らない犯罪も数多く存在いたします。また、振り込め詐欺や窃盗については、全国的にも増加傾向にあります。

開成町においては、平成26年1月から7月末現在において発生した刑法犯は72件に及ぶと言われております。昨年同期比で横ばいではありますが、ゼロに近づける努力が必要と考えます。自分は犯罪に遭わない、大丈夫だと思っている人が多いが、昨今危険は至るところにあります。より安全で安心に暮らせるまちづくりを進める上で、さらに踏み込んだ防犯体制の強化を進める必要があると考えます。今後の町の取り組みについて伺いいたします。

①かいせい防犯まちづくり推進協議会の位置づけと活動内容は。②自主防犯団体などさまざまな団体があるが、連携協力し、かいせい防犯まちづくり推進協議会の強化・拡充を図っては。③不審者等の情報を周知徹底を。④振り込め詐欺防止対策は。⑤小学校・中学校における防犯教育の現状は。⑥開成駅前交番設置の見通しは。⑦公共施設等に防犯カメラの設置を、について伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

おはようございます。佐々木議員のご質問にお答えしたいと思います。

一つ目のかいせい防犯まちづくり推進協議会の位置づけと活動内容についてであります。かいせい防犯まちづくり推進協議会は、地域の団体及び行政機関が協働して、町民総ぐるみで防犯運動を展開することにより、安全で安心なまちづくりを実現することを目的に設立がされました。その活動内容は、防犯団体間の情報交換と連携強化、松田警察署の情報提供の場としても活用をしております。毎月27日の交番の日の活動や10月末の防犯キャンペーンなどを実施しております。

二つ目の自主防犯団体などさまざまな団体がありますが、連携協力し、かいせい防

犯まちづくり推進協議会の強化・充実を図ってはありますが、町では、かいせい防犯まちづくり推進協議会のほかに、「開成町学校・地域安全推進委員会」を設置及び運営をしております。近年、全国的に登校時も含めて子どもたちが凶悪な犯罪に巻き込まれる事件が多発し、地域ぐるみでの防犯安全が求められております。これに応えるために、学校、地域が一体となって、幼児、児童、生徒の防犯安全を推進をしております。

この組織には、各学校関係者、警察、開成駅前連絡所ボランティア安全サポーター、老人クラブ連合会、自治会長連絡協議会など、各種団体に参加をいただいております。この活動を強化していくことが必要であると考えております。

三つ目の不審者等の情報の徹底についてお答えします。

警察からの不審者情報については、町ホームページを活用して情報提供を行っております。町では、平成20年4月から、携帯電話のメールによる「不審者情報等メール配信サービス」を活用した不審者情報を登録者へ配信をしております。

現在の登録者数は625名で、平成25年度には、開成町の情報を含め、1市5町で16回の配信を行っております。

登録は、毎年度の4月に、幼稚園・小学校・中学校への入園、入学する園児・児童・生徒の保護者に通知をし、任意での登録を呼びかけております。

不審者情報は、足柄上地区1市5町の園、学校や保護者からの情報を各市町の教育委員会を経由して、県西教育事務所足柄上指導課へ集められます。足柄上指導課から管内市町の教育委員会へ伝達され、各市町においてメール配信されております。

現在までの間、開成町においては、大きなトラブルや不審者による被害は出ておりません。

四つ目の質問、振り込め詐欺防止策について。

松田警察署から町に振り込め詐欺の情報提供が行われ、町内において前兆電話があった場合には、防災行政無線、TVKのデータ放送を使用し、犯罪抑止の放送を実施しております。

また、松田警察署から、市町、防犯指導員及び金融機関等にも振り込め詐欺前兆電話の情報を提供し、犯罪の抑止に努めてもおります。

振り込め詐欺の犯罪の形態は多様化をしておりますが、今後も関係機関と連携を強化し、振り込め詐欺の防止に努めてまいりたいと思っております。

次に、小学校・中学校における防犯教育の現状についてお答えをします。

神奈川県では、「学校における防犯教育指導資料」を策定をし、小中学校での防犯教育指針等を示しております。

小中学校では、県の資料に基づき、学校行事を通して防犯教室を実施しております。また、幼稚園においても、教育要領に基づいて、防犯教育を行っております。

幼稚園では、誘拐防止に関する映像による学習を繰り返し行い、「子ども110番のいえ」の説明、防犯の約束確認の実施、県のくらし安全指導員による防犯教室を開催して、園児の防犯への意識づけを行っております。あわせて、保護者への指導も実

施をしております。

小学校では、発達段階にあわせた防犯教育の開催、防犯ベルの正しい使い方の説明、高学年では、自分の身を守るための防犯教育授業や通学路や地域での危険箇所調べなども行っております。

中学校では、学校内での不審者対応訓練の実施、登下校時に危険な状況等を目撃した場合には、自分の身を守り、周囲への通報や犯人の特徴を覚えるなどといった、生徒自らが的確な状況判断を行い、臨機応変に自分の身を守ることができる能力を育成する訓練や、被害拡大防止などに役立つ指導も実施をしております。

毎月1日・15日を中心に、自治会をはじめ、各種団体のご協力により、園児・児童・生徒の登下校時の交通安全、防犯の見守り活動も行っております。参加いただいている「開成町学校・地域安全推進委員会」の各種団体、町民の方々にこの場をかりて、改めてお礼を申し上げたいと思います。多くの人々の目で見ると、声をかけることが安全につながり、子どもの防犯教育にもつながっていると確信をしております。

さらに、各家庭等では、「こども110番のいえ」の看板設置、自転車への「お出かけパトロール」プレート板の取り付けにより、地域・町ぐるみで子どもたちの安全・安心に向けた取り組みも実施をしております。この活動を継続し、さらに活発にさせ、全ての町民が安全に暮らせる町にしていきたいと考えております。

六つ目の開成駅前交番の設置の見通しについてであります。開成駅前連絡所については、町の交番設置要望により、平成23年4月から神奈川県警察OBの方が、交番相談員として配置をされ、地域防犯力の向上に寄与していただいております。

足柄紫水大橋の開通や南部地区の開発の進展など、今後も町の発展が見込まれる状況があり、二つの駐在所の堅持をしつつ、県に交番設置要望を行っております。県からの回答では、開成駅前地区は、夜間は新松田駅前交番が管轄しており、現在の交番・駐在所の配置状況を踏まえて検討すると、現時点では交番の設置は困難であり、今後も、同地区の開発状況及び治安情勢の推移等を見ながら、交番等の適正配置を検討していくというふうに言われております。早期の交番設置は難しいと判断せざるを得ません。しばらくは現在の対応を続けながら、設置に向け要望活動を引き続き実施をしていきたいと考えております。

最後の「公共施設等に防犯カメラの設置を」についてですが、安全で安心なまちづくりを進めるため、犯罪抑止効果のある防犯カメラを、今年度、開成駅西口の駅前連絡所及び時計台の2カ所に設置をいたしました。今後、その設置の効果を検証し、効率的な設置箇所の選定を実施し、計画的に増設をしていきたいと考えております。

教育施設では、開成小学校・開成南小学校では、それぞれ設置が完了し、運用を開始しております。文命中学校では、今年度設置を予定しております。開成幼稚園では、平成28年度の大規模改修時に設置を予定しております。

以上です。よろしくお願いたします。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

ただいま町長答弁をいただきまして、順次、再質問させていただきます。

現在、多数のボランティア団体さんに防犯活動をしていただいていると思いますけれども、非常にありがたく感謝をしたいと思います。

そんな中で、各団体の連携ですけれども、このかいせい防犯まちづくり推進協議会、また開成町学校・地域安全推進委員会の委員になっていない団体もあると思うんですけれども、そういった団体も含めまして、各団体の連携というのはとられているのかお伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（遠藤孝一）

はい。私のほうで把握している団体で、この防犯推進協議会及び学校・地域安全に入っていないという団体もございます。それは、多くは、例えば上延沢の関係、上島の関係とか、地区別の自主防犯組織、あるいはおやじの会というOBの方ですとかというところと、あとは、寸劇をやりながらというようなところで登録していただいているところがございます。これを統一的に指導していくということを行えばいいんでしょうけれども、そういう希望がもしあればというところをちょっと調査して、例えば警察を呼んで、ボランティアで回るときの注意点ですとか、そういうことを共通認識していただく場は設ける、もし希望があれば、調査をして設けたいと思います。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

ぜひそういった動き、調査、よろしくお伺いいたします。

それで、見守り活動なんですけれども、この活動は幾つかの団体さんが行っていると思いますけれども、この見守り活動中に、他団体と出くわすことがあるようなんですけれども、活動の効率化などを考えますと、各団体さんの活動スケジュールの調整なんかはできないのかなんていう声をちょっと伺ったんですけれども。

また、相手が思春期という非常に難しい年ごろの子どもたちで、見守る側の対応にも非常に敏感に反応してしまうそうなんです。それで、現在も各団体さんがそれぞれの考えを持って活動されているとは思いますが、開成町として、青少年健全育成ということに対しまして、どのように考えていくのか、ある程度共通認識を持った活動をしてはと思うんですけれども、その辺についてのお考えをお伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

危機管理担当課長

○危機管理担当課長（遠藤孝一）

今のお話で、パトロールをしていると、途中で同じような時間帯に動くから、出くわしてしまったり、ある程度考え方が違う組織なので、指導の仕方が違うというよう

なことで、青少年を指導していく上で統一的なというお話ですけれども、基本的には、本業でない方がパトロールされているわけですから、そこは、例えば、強制的に、帰れ、だとか、そういうような、あるいはどこの誰だ、みたいな話はしてほしくはありません。警察の指導としては、大人が、団体が、そういうパトロールをしたことによって、自分たちは見られているんだ、という意識づけが大事であって、後の問題は警察にお願いします。

最近別な話ですけども、例えば、松ノ木河原地区で、公園があって、そこにバスケットゴールがあると。そこに夜中の2時、3時にたむろして、バスケットをやっているというような苦情も入っております。そこは、松田警察署の生活安全課に、私どもと街づくりの担当と行きまして、パトロールの回数を増やすとか、そういう時間帯に立ち寄るとか、そういうことを要望しております。そういう指導的な、統一的な考えはちょっと今は持っておりません。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

現在、開成町では、複数の団体さんにボランティアでこういう活動に協力していただいております。ぜひ各団体さんが活動しやすい体制づくりをしていただきたいと思います。

次の質問に移りたいと思います。

先ほど答弁にありました安心メールですけれども、これは、子ども、保護者が対象の事案配信メールだと思うんですけれども、この取り組みはこの取り組みでよいと思うんですけれども、私が知っている限りで、大井町さんなどで行っている安心メールですと、振り込め詐欺や政治に対する事案なんかも含めまして、配信相手のほうも全町民が対象の安心メールというようなメールを活用されているみたいなんですけれども、開成町でもぜひこういった町発信のメールの活用をしていただきたいと思いますというふうに思っております。情報をより早く、詳細を広く周知するためにも、ぜひ活用していただきたいと思いますと思いますけれども、町の考えをお伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（遠藤孝一）

はい。現在、議員がおっしゃられるとおり、メール配信は、教育委員会のほうから、登録された保護者に対して、無料の不審者メールのみを送っているというのが現状でございます。これは、考え方として、何で教育委員会がというところがあるかと思っておりますけれども、基本的に、保護者の方が、当然生徒・児童にそういうことがあると、情報が欲しいというような話ですが、今までは家庭に回覧というか、通知を配ったりというようなことで、タイムリーでない。あるいは、PTAとかそういう組織は当然予算も少ないですからというようなことで、そういう会社が協力していただいて、限定的に不審者メールを出しているというのが発端かと思っております。ご提案の防災メー

ル的な、不審者メールだけじゃなくて、町、町民全体にこの不審者メールを含めてやるということは、現在、町では行っていないのが現状です。

近隣を見ますと、いろいろなやり方をしていますので、大井町のやり方がいいのか、あるいは南足柄市でやっているやり方がいいのか、ちょっとその辺は検討させていただいて、あるいは最近ではもう、SNSのツイッターであるとか、そういうことで配信しているというような情報もありますので、それは検討させていただきたいと思います。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

ぜひ前向きに検討していただきたいと思います。

それで、また、不審者情報としてホームページで情報提供をされておりますけれども、こちらを目的で、不審者情報を目的で見にいかれる方はよいんですけども、より多くの人に見ていただくために、お知らせ欄のほうにこういった情報を掲載してもいいのかなと思うんですけども、その辺についての考えをお伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（遠藤孝一）

ホームページで不審者情報を出しても、要は、どうやって見るのか、見づらいよということですから、その辺は担当課と調整して、できる限り見やすくアレンジしていきたいと思います。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

ぜひよろしく願いいたします。

不審者情報につきましては、できるだけ早く、多くの人に認識していただいたほうが良いと思いますので、ぜひ前向きに検討していただきたいと思います。

次に、犯罪抑止に効果的だとされているもので、ご存じかもしれませんが、青色回転灯を使ったパトロール活動というのがあるようで、一定の要件を充足する場合は、地域住民の方々が実施している自主防犯パトロール用に用いる自動車に、青色回転灯を装備することが可能になったということで、正直この一定要件を充足するところ、大変なところもあるみたいで、なかなか賛同される方もいらっしゃらないような状態もあるみたいなんですけれども、こういった制度がありますよという周知ぐらいは町からされてもいいのかなというふうに思っております。

また、振り込め詐欺に関しましても、こちらもご存じかもしれませんが、神奈川警察のホームページに、オレオレ詐欺に遭わないためのチェック表付防犯チラシ、または、オレオレ詐欺等抑止シートというのがあります。防犯チラシは、こんな言葉が出たらオレオレ詐欺ですよ、なんていう感じでチェックをされる。例えば、風邪

をひいてしまった、とか、何かそういう言葉が出てきたら、これはオレオレ詐欺ですよ、なんていう部分をチェックするようなシートみたいです。また、オレオレ詐欺抑止シートというのは、この電話はオレオレ詐欺ではないですか、というようなことが記載されておりまして、電話に直接張って使用したりもできるようなものになっているみたいで、これはこちらのホームページ上から印刷して使用するようになっているものでして、こういったものもありますよというのを町民の方々に周知されるのも一つの方法かなと思うんですけども、その辺について町の考えをお伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（遠藤孝一）

ご提案ありがとうございます。青パト、いわゆる青色回転灯の車の件ですけれども、各市町は白黒のパトカーに似た色で青色回転灯をつけると。この場合は、ボディに、例えば「開成町」であるとか、そういう明確な表示をなさいますとか、いわゆる自主防犯パトロール活動をされる団体が、もしそういう回転灯をつけるという場合においては、脱着式の回転灯も認められているところですが、ある程度この条件に合うことがかなり難しいのかな、あるいは講習をまめに受けるであるとか、そういうところ、資格がちょっと厳しいのかなとは思いますが、その辺は、もしそういうことを周知して、ぜひやろうという団体が出て来れば、それは本当にありがたいことでもありますので、そこの周知についてはしていきたいと思えます。

別件のオレオレ詐欺の件ですけれども、ここの9月に警察もいろいろ人事異動があって、神奈川新聞の発表によりますと、9月の中旬にはオレオレ詐欺の専門部署を設けて、100人態勢で実施していくということのようですから、また、今までは所轄の、うちの町ですと、松田警察署の生活安全課からの指導で、防災行政無線で流してくれというようなことでやってきたのが対策なんですけれども。実際オレオレ、この詐欺に関しては、実際お金を取りに来る者を捕まえても、本当はこれはただの運び屋というか、その日限りで雇われた人で、本当のもとはどうしても捕まえられないということで、県警がそういう体制をとるということですので、その辺の組織から、警察のほうから、町はこうしてくれとか、そういう要請があった場合には対応していきたいと思えます。

チェック表が効果的だと思うよということでご提案ですけれども、ちょっと調べさせていただいて、その周知の仕方についてはちょっと検討してまいりたいと思えます。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

ぜひよろしくお願ひしたいと思えます。

こういった情報提供ですけれども、なかなか皆さん知っているようで知らないこともありますので、できる限り情報提供に努めていただきたいと思います。

次に、5番の質問に移らせていただきます。

防犯教育の関係の質問なんですけれども、先ほど答弁をいただきまして、幼稚園、小学校、中学校と、国、県の方針に沿った防犯教育を行っているということで理解いたしました。

そんな中、神奈川県の方針の中に、不審者の侵入時に対する避難訓練の実施というようなことが示されておりますけれども、開成町ではこれほどどのように行われているのか伺いたします。

○議長（小林哲雄）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

では、お答えさせていただきたいと思います。

答弁の中でもお答えさせていただきまして、また、重複する部分もあるんですけども、学校での防犯教育につきましては、学習指導要領に位置づけられておりまして、これに関しまして、安全に関する全般的なものということで規定されております。

大きくいきまして、小学校、中学校ということでございまして、まず、小学校ですと、学級活動ですとか学校行事、その中で、安全指導といたしまして、防犯を含めた身の周りの安全、交通安全、防災など、「自分の生命を尊重して」危険を予測し、事前に備えるなど、そういった日常生活に必要な事柄を理解してもらうということでの育成をすることが求められております。あと、また、小学校ですと、新入学児童がおりますので、学年当初に、そういった登下校時に安全な登下校ができるようにということの指導も求められているところでございます。

同じように、中学校でも、中学校ですと年齢を重ねてまいりますので、今度、学校内外を含めた形での自分の生活行動の見直しですとか、自ら安全に配慮して、危険を回避できるような能力を高めていくということですか、あと、自分のみならず、周りの人の安全を確保するということが求められているところでございます。

これらのことを踏まえまして、幼稚園を含めまして、園・学校では、各年間の指導計画の作成ですとか見直しを行っているところでございます。

あと、安全管理マニュアルというものもございまして、緊急時の対応マニュアルもございまして、そちらの確認ですとか見直しを毎年行っているところでございます。その中で、安全の点検ですとか防犯研修、あと、警察ですとか暮らし安全指導員の方の協力によりまして防犯教室の実施、あとは、小学校ですと防犯ブザーの指導、あと、交通安全も含めますけれども、地区別の集団下校ということも含んでおります。その一つとして、やはり不審者侵入時の避難訓練ということで行っておりまして、防犯だけにとどまらず、交通安全ですとか防災に関する訓練を、年間計画に入れて実施しているところでございます。それに際しましては、やはり教職員の方についても、自分自身の意識を高めたりということもございまして、事前に研修を行ったり、シミュレーションを行って、そちらの訓練に備えているところでございます。

各幼稚園、小学校でも、そういった侵入者の避難訓練を行っておりますけれども、やはり子どもがショックを受けてしまう場合がございますので、それにつきましては、子

どもの発達段階に合わせた訓練ということで、過度な不安感を抱かないようにですとか、人に対して不信感を与えないような形で配慮して実施しているところがございます。ですから、各園・学校で、計画にのっとり、そういった不審者対応の訓練というものを実施しているところがございます。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

今、子どもが不安感という言葉がちょっと出てきて、私も、ここ、ちょっと気になったんですけど、ここで、保護者の方が何かいろいろ気にされるというようなお話も聞いたんですけども、この関係で、保護者の方などに対して何か配慮されていることというのはあるんでしょうか。

○議長（小林哲雄）

教育長。

○教育長（鳥海均）

お答えになるかどうかわかりませんが、訓練が訓練でなくなって、やはり本当に不審者、例えば暮らし安全指導員に不審者の役をやらせてもらって、こういうふうにするんだよと教職員の指導はできるんですけども、例えば1年1組に不審者が入ったという形でやるというのは非常に難しい問題です。ですから、親御さんに説明するにしても、こういう訓練をしますので、子どもさんにご指導をお願いしますというような学級からのおたよりとか、発達段階に即して、やはり保護者に協力を得るという形はとっています。

なかなか、これは不審者の問題は、入らないように、今、門扉を全部きちっとして、なおかつ校舎に施錠をして、入らないようにしているんですけども、やはり事件が発生したところによると、巧みにやはり入ってきて凶器を出すとかということなので、まずは職員がそのことに対して訓練をしておくということで、今の保護者がどうかということに対して、やっぱり子どもたちの精神的な不安定さを持たないように協力を依頼するという形のみしかないかなというふうに思っています。

ですから、不審者があらわれた場合でも、今、学校に指示しているのは、「不審者があらわれたので注意しなさい」という校内放送はしない。「校長先生に電話が入っています」とかという暗号でやっています。ですから、そういう形で、先生方が、不審者を余り凶暴化させないように、じっくり話を聞きながら、時間をかけて、警察を呼ぶという取り組みをしていますので、現実合っているような訓練は、子どもたちにはなかなか難しいということでご理解をさせていただきたいと思います。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

相手がなかなか子どもということで、難しい部分もあるかもしれませんが、今後とも防犯教育に努めていただきたいと思います。

それでは、「こども110番のいえ」の関係のほうの質問をさせていただきますけれども、まず、この「こども110番のいえ」の取り組みはいつから始められたのか、また、現在この「こども110番のいえ」、「お出かけパトロール」、プレートに協力していただいている方、どのくらいいるのかお伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

では、お答えさせていただきたいと思います。

まず、「こども110番のいえ」ですけれども、こちらは平成9年度から実施をしてございます。現在、設置数につきましては、400件、400枚と申しますか、そういう形で設置をして、協力をいただいているところでございます。

こちらの当初の110番をつくったきっかけでございまして、これにつきましては、開成小学校のPTAのほうで発案してつくっていただいているところでございます。当時、神戸の須磨区での連続児童殺傷事件がございまして、このような事件を受けて、子どもを守るということで、当時の広報にも載っているわけなんですけれども、「こども110番のいえ」の設置が提案されております。開成町でも、事件にならないまでも、そういったことがございましたので、警察に指導いただきながら、こちらのほうの検討を進めていったようでございます。

この110番につきましては、危険が及んだときに、その家へ躊躇なく逃げ込んだりとか、助けを求めることができる家であるということで、募集のほうをしていただいております。

あと、それ以外にも、急に、例えばおなかが痛くなってトイレへ行きたいとか、そういったことでも使えるような形で、設置に関してはご協力をいただいております。

今現在、うちのほうとしましては、犬のお巡りさんの図柄でやっております、こちらでもPTAのほうで考えていただいて、つくっている状況でございまして。

あと、続きまして、お出かけパトロールですけれども、こちらにつきましては、自転車にプレートをつけていただいております。こちらの開始年度については、平成17年となっております。今現在は、532枚のほうを配付して協力をいただいているところでございます。

以上です。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

この「こども110番のいえ」のプレートの拡大ということで、これ、毎年予算にも計上されていると思うんですけれども、私、ちょっと、記憶が確かならば、この25年度の予算時に設置世帯399世帯だったと思うんです。それから比べると、今、プラス1件ということなので、なかなかちょっと難しいところがあるのかなと思うんですけれども、この設置箇所の拡大ということで、今どのような方法で行っているのか、

また、今後どのように拡大を図っていくのか、まずお伺いしたいのと。

あと、一つ、この設置世帯の場所ですけれども、やっぱりバランスというのも、各地区のバランスというのも大事なのかなと思うんですけれども、今現状、開成町でこのバランス、偏りとかそういうものはないのか、簡単でいいんですけど、お伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

はい。では、お答えさせていただきます。

今ご指摘ございましたとおり、ここ数年につきましては、なかなか増えている状態ではございませんので、また、こちらで随時お知らせ板等を使いまして、新規募集をかけていきたいと思っております。

あと、また、現在ご協力いただいている家庭につきましては、看板の状況など、悪くなっているところもあると思いますので、そちらのとりかえなども今後も実施していきたいと思っております。

あと、バランス的なものなんですけども、こちら、基本的に協力いただけるご家庭ですとか、当初、商工振興会のほうにも協力いただいておりますので、お願いしている自治会ごとに配付するというのは把握しております。あと、学校のほうでも、どこに設置されているかということで、地図上に落としましたもので、学校のほうでは把握をしております。バランスが、余り偏ってもいけないとは思いますが、協力いただける家を中心にやっていますので、その辺についてはなかなか難しいとは思いますが、途中、地図で確認して、ないようなところはお願いに行ってもいいのかなというふうには考えております。

以上です。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

一つ確認させていただきたいんですけども、現在、開成町では、特にバランス的に偏った部分はないということで理解してよろしいでしょうか。

○議長（小林哲雄）

教育長。

○教育長（鳥海均）

落としていったところ、南学区の、いわゆる今の都市計画区域のところは、今のところ全くないですね。ですから、その辺につきましては、先般の学校・地域安全推進協議会の中で、今後どうするんだという話がありまして、やはり通学路を中心にして、駆け込みできる場所ということで考えなくてはいけないなということで、ただ、現在では、中央通りの歩道がしっかり整備されていますので、今のところ危険性はないのかなというふうに考えていますけども。常に、先ほどの団体の連携という話になりま

したけども、学校・地域推進安全協議会の中で、確実に、今何件110番の家があって、どういう活動があったかというようなことをやっておりますけども、今のところ、ここ近来は駆け込みをしたという例はありません。ですから、各地域によっては、新入生を迎えたときに、4月当初に、地域をめぐって、ここが110番のいえなんだよということを、青少年活動の一環としてやっていただいているこども会もありますので、それはいい例として、やっていないところには協力を依頼したいなというのは思っています。今のところ、満遍なく各地域にあるという考えでいいと思います。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

それと、このこども110番、ちょっと気になることは、今始められてから17年ぐらいたつと思うんですけども、これ、ある程度の時間、その家に所在されている家が対象になっているというふうに思われますけれども、17年間たつと家族構成なんかも変わられているような家も出てきているのかななんて思うんですけども、この辺に対しての対応は何かされているのでしょうか。

○議長（小林哲雄）

教育長。

○教育長（鳥海均）

おっしゃるとおりで、家族構成が変わったり、いろいろしますので、毎年度、3月のときの推進協議会の中で、そういうお話を、ありますか、ということはお伺いしていますけども。ほかの町村の場合には、各年度の終わりに、一覧表の中に、各家庭の今年度の状況というものを、報告を依頼して、来年度もご協力いただけますかという形でやっているところもあります。直接的に駆け込むというよりは、110番のいえの掲示があることによって、抑止力になるというほうが大きいのかなと思っていますけども。現実にそこに駆け込むことがあってはいけないわけですけども、安心して子どもたちが駆け込めるような体制はとっておきたいというふうには思っています。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

この「こども110番のいえ」の取り組みは、全国でも重要視されている取り組みなので、開成町でもより効果的な取り組みにしていきたいと思えます。

また、それと、こども110番の関係なんですけれども、私、平塚の工事現場で、こども110番やお助け隊として、高齢者、障害者、子ども、妊婦さんなどの手助けをするといったような取り組みをしている会社がありました。実際に取り組みをしている事業者さんとちょっとお話をさせていただいたんですけども、地域の方からなかなか評判も非常によいというようなお話を聞いてきたんですけども。私、この取り組み、非常によい取り組みだなと思っておりますけれども、この取り組みについて、町がどのように思われるか、ちょっと考えをお伺いしたいと思えます。

○議長（小林哲雄）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（遠藤孝一）

今のお話は、具体的に、よその市町で、工事現場でそういうサービスの看板を見たよというお話ですけれども、この辺で、町内で見るとはなりません。そういうことをやっている企業があるということで、例えば、建設業協会であるとか、管工事組合であるとか、そういうところに対して提案はするのは有効だとは思いますが。

○議長（小林哲雄）

まちづくり部長。

○まちづくり部長（芳山忠）

補足をさせていただきます。私ども、発注者側の立場ですけれども、そういったことを、協力を求めるということは決して不可能ではないのではないかと思います。ただ、町の一つの事業のあり方として、工事に関して、成績評価を求めています。その中で、いわゆる地域貢献といった、どの程度それを行っているかといったことも評価の対象になっておりますので、そういった観点から、協力を求めていくというのは、一つの考え方としてはあろうかというふうに考えております。

以上です。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

私、これ、ちょっと、いろいろ調べたんですけれども、やっぱりこれ、皆さんこれは独自でやられている取り組みということで、町がどのように携わるといことになりますと、ちょっと難しい部分があるのかなと思うんですけど。今みたいに各機関の関係者の方に協力を求められるというような形でできるんでしたら、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

続きまして、駅前交番の質問に移りたいんですけれども、町としては、現状2カ所の駐在を堅持しながら、交番の設置を要望していくということは、これ、ほかの場でも何回か聞いております。町の考えはもう理解しておりますけれども、県からは、もうそれでは難しいということで、交番等の適正配置を検討していくということですが、町が要望しているものと違う形で提案された場合、町はどのような対応をされるのか、ちょっと確認させてください。

○議長（小林哲雄）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（遠藤孝一）

ご指摘は、二つの駐在所を維持しながら、なおかつ新しい交番を設置していると、これをずっと同じ要望を繰り返していてももちが明かないから、向こうとして、例えば、片方を削ってこっちをつくるというようなことになったらどうするのかというようなお話かと思ひます。

この辺については、平成22年度に、一度町の方針を出すために検討をしていきました。あくまでも二つの駐在所を残して、新たに交番を設置するのがいいのか、二つの駐在所は残して、駅前連絡所を強化するのがいいのか。二つの駐在所を廃止して、駅前交番を要望するのかなというようなこととお話をした結果、現状の駐在所を残し、なおかつ交番の新設を要望していこうというようなことで方針決定をした中で、実際行っているところです。ですけれども、町長答弁にもあったように、交番の設置はなかなか難しいということで、警察の回答としても、夜間については、新松田の交番が開成の駅前も管轄しているんだというような回答で、なかなか進展していないという状況でございます。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

この問題につきましては、今後の開成町に大きな影響を与えてくると思いますので、より慎重に対応していただくことをお願いしたいと思います。

次の質問に移りたいと思います。

現状だと、夜になりますと、新松田駅前交番が管轄されているということで、常駐されている方はいなくなるということだと思えるんですけれども、駅周辺の安全確保という意味で、私ちょっと、夜心配なんですけれども、この辺、町は今現在どのように考えているのかお伺いします。

○議長（小林哲雄）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（遠藤孝一）

今お答えしましたとおり、夜間については、新松田の交番が開成の駅前の管轄もしているという状況で、日中は多少進展して、常駐する交番相談員という者を警察のほうから派遣していただいております。しかしながら、土日ですとか夜間についてはそれがいい。そこについて、例えば相談員の延長ができるのかとか、その辺は要望してまいりますけれども、実際の回答は、新松田の交番が夜間は担当しているという回答でしかいただけていないという状況でございます。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

松田警察が今管轄されているということですのでけれども、松田警察が管轄する、町としてはどうしても、これ、何かできないというようなことなんでしょうか。町として何か考えてもいいのかなというふうに私は思うんですけれども。その辺について、ちょっと考えをお伺いします。

○議長（小林哲雄）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（遠藤孝一）

町としてどうにかならないのかという話は、多分、警備員を雇ってでもそこに配置できないのかというような提案かと思えますけれども、ちょっとそこについては、夜間具体的にあそこは連絡所という名称で行っていますけれども、やはり正式に交番という形で、本職の警察官がそこに張りつくことが一番理想でありますので、そこにちょっと予算をつぎ込んで、警備員を雇って夜間警備をするということは、今は考えてございません。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

駅前ですけれども、今年、多分2月だったと思うんですけれども、昼間ですけれども、不審者が発生しております、また、駅前、これから人も増えてくると思っていますので、ここを、ぜひ、ちょっと前向きに検討していただきたいと私は思います。とりあえずお願いをしたいと思います。

次に、防犯カメラの件の質問に移りたいと思います。

今後、計画的に増設していくということですので、この辺はぜひよろしく願います。

また、ちょっと一つ確認ですけれども、両小学校への防犯カメラの設置数と設置箇所の設定はどのように行われたのか、ちょっとお聞きします。

○議長（小林哲雄）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

はい、お答えします。

まず、開成小学校につきましては、昨年度までの大規模改修時に設置しております、開成小学校では3台を設置してございます。24時間、動画で撮影しまして、いざ見るときは、こま送りの形で確認するような形となっております。開成南小学校は、開設時に設置されておまして、エレベーターの中にもついておまして、それを含めて6台ですか、設置をされている状況でございます。

あと、設置場所の設定につきましては、主に学校の校外からの出入り口付近ということになりまして、死角になりそうな場所と、あと、不審者が確認できるというようなところで、学校や専門業者と相談しながら、設置場所を選定している状況でございます。

以上です。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

ここ数年、防犯カメラによる事件解決、また犯罪抑止にも、非常に防犯カメラが重要視されております。先ほど答弁にありました効率的な場所に、計画的に防犯カメラを有効に活用していただきたいと思えます。

防犯は、町民一人一人がその意識を持つことが大切だと考えております。防犯パトロールや防犯カメラの設置なども、これももちろん有効だと思っておりますけれども、今後、町としてよりきめ細かい広報活動などを積極的に行っていただいて、町民一人一人の防犯意識、犯罪撲滅意識の高揚を図っていただきたいと思っております。

これで私の質問を終わらせていただきます。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

開成町にとって、これから人口をどんどん増やしていく、南部地区は区画整理もこの夏に終わりましたので、ここに移り住んでもらうということで、開成駅周辺の防犯というのは大変重要なことに位置づけをしていかなきゃいけないと思っています。

先ほど、県から駐在所を潰して交番をとか、いろいろ言われましたけど、駐在所の役割と交番の役割は全く違うと思うんです。今の駐在2カ所の人たちは、各それぞれの、酒田と吉田島分かれて、二人で分担して、その地域の安全見守り、ほか、自転車の乗り方もそうなんですけど、地域に溶け込んだ中で、地域の住民の安全のために今活動をしていただいています。交番というのは、24時間体制で、また、意味が違う私は考え方だと思っていますけど。駐在所はきちんと残しながら、交番誘致をこれからも要望していきます。今までもずっと要望していますし、これからも要望していくんですけども、ただ、要望していただくだけでは、なかなか難しい部分があるんじゃないかなと。ある意味、どこかの発想を変えながらやっていく必要もあるのかなと。

その一つは、いろいろ松田警察署とも懇親会の中で話をさせていただく中で、やはり小田急の開成駅に急行がとまるということはすごく大きなことで、急行がとまる場所に交番がないわけにはいかないよね、というふうな言い方もされますのでね。ただ、交番を設置じゃなくて、まずは急行をとめる、次の目標は掲げて、足柄紫水大橋も開通しまして、今、大井高校からも、生徒に大分乗り降りしていただいています。今1万人の乗降客があるんだったら、これを目標をきちんと2万人に設定をして、どうやったら2万人に乗降客を増やせるか、そういうことを具体的にやっていくことによって、交番設置に向けて動けるんじゃないかと思っています、実は。そのために大事なものは、やはり開成駅に急行をとめるために、皆さんと一緒にできる活動をしていかなきゃいけない。行政としては、例えば、新松田から大井まで、開成駅に来るバス路線を確保するとか、いろいろな手段、大井町にお願いして、大井町の企業の皆さんには、開成駅で乗ってもらえるようなセールスをしていくと、そういうことで乗降客を増やして、急行をとめる、それによって交番設置の可能性が高くなると、私は思います。いろんな手段をやりながらやっていきたいと。

今、交番ができるまでの代替として、夜間を含めて、防犯カメラを2台、今年設置をしました。そういう意味もありますので、24時間全部、町で防犯体制を、なかなかいかなない部分を補う意味も含めて、防犯カメラを設置しましたので、そういうのも含めて、開成駅前の安全対策は重要という認識の中で、これからも進めていきたいと

考えておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（小林哲雄）

いいですか。

○9番（佐々木昇）

ありがとうございました。